

精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けた課題と取組の状況

【特徴(強み)】

- 区内事業者と行政が連携しやすい信頼関係がある。
- 事業者の努力により、一部地域では精神障害者への理解があり住みやすい。

課題	課題に解決に向けた取組状況	取組の成果
【住まい】 ①地域移行支援における体験宿泊室の不足 ②精神障害者の地域での住まい(アパート、GH)の不足	1.体験宿泊に対する課題の整理 2.体験宿泊室(地域移行専用室)の増加に向けた仕組み作りの検討 3.不動産関係者(業者、大家、保証会社)理解とリスクを減らす仕組み作り	体験宿泊に対する課題の整理には着手 体験宿泊室の増加に向けた仕組み作りの検討を始めたところで、具体的な取り組み成果には至らず。 不動産関係者の理解とリスクを減らす仕組みに関しては次年度新規区事業を増設
区内に入院できる精神科病院が無く、区民は周辺の自治体の病院に入院している。	区民が多く入院している主要病院から連携を深めるように説明会や意見交換を進めていく	区主催の会議に、近隣の入院病床を持つ病院からも参加あり。しかし、説明会や意見交換の実施ができず

課題解決の達成度を測る指標	現状値 (現時点)※	目標値 (令和元年度末)	達成状況の見込み(評価)
①体験宿泊に対する課題の整理			課題の抽出・整理はできた。
②体験宿泊室(地域移行専用室)の増加	1	2	増加に向けて具体的な方策の検討まで至らず
③病床を持つ近郊病院の連携数			意見交換の実施ができた